

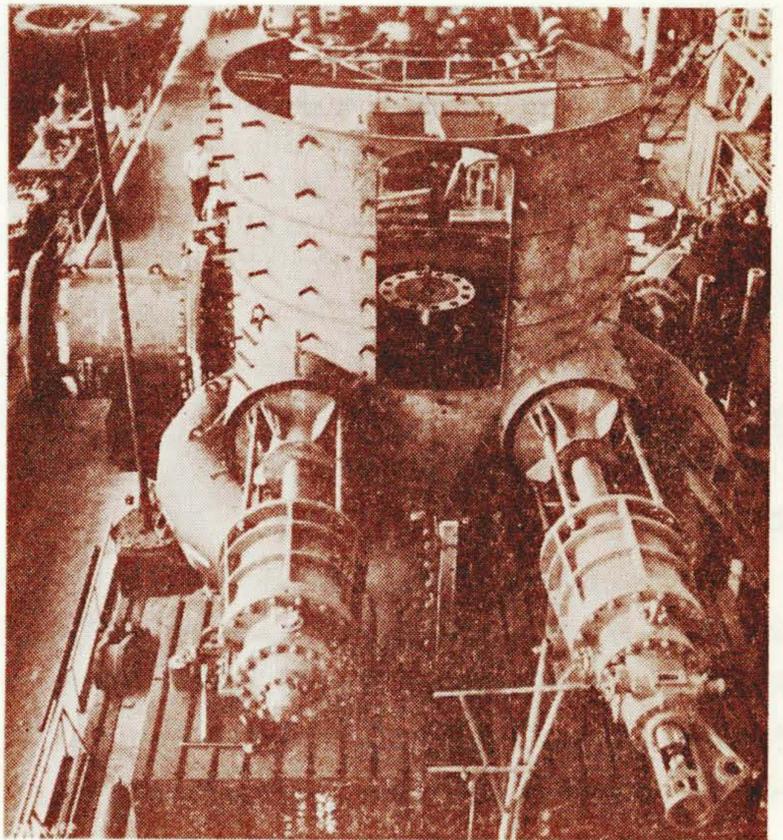
# 日立ニュース

## 北陸電力株式会社新中地山発電所納 40,200 kW フランシス水車完成

日立製作所日立工場では北陸電力株式会社から受注した新中地山発電所用 40,200 kW 水車 2 台のうち、このほど 1 台目が完成し立会試験にも優秀な成績をおさめた。

新中地山発電所は富山県上新川郡大山町大字中地山の常願寺川水系にあり、ここに設置される 40,200 kW 水車発電機 2 台を日立工場で作製中であつたものである。

このたび完成した水車は縦軸フランシス形で、落差が 270 m、回転数 450 回転で、さきに高落差フランシス形水車として日立工場で作製した滝山川発電所(中国電力)の水車につぐ高落差大容量フランシス水車である。



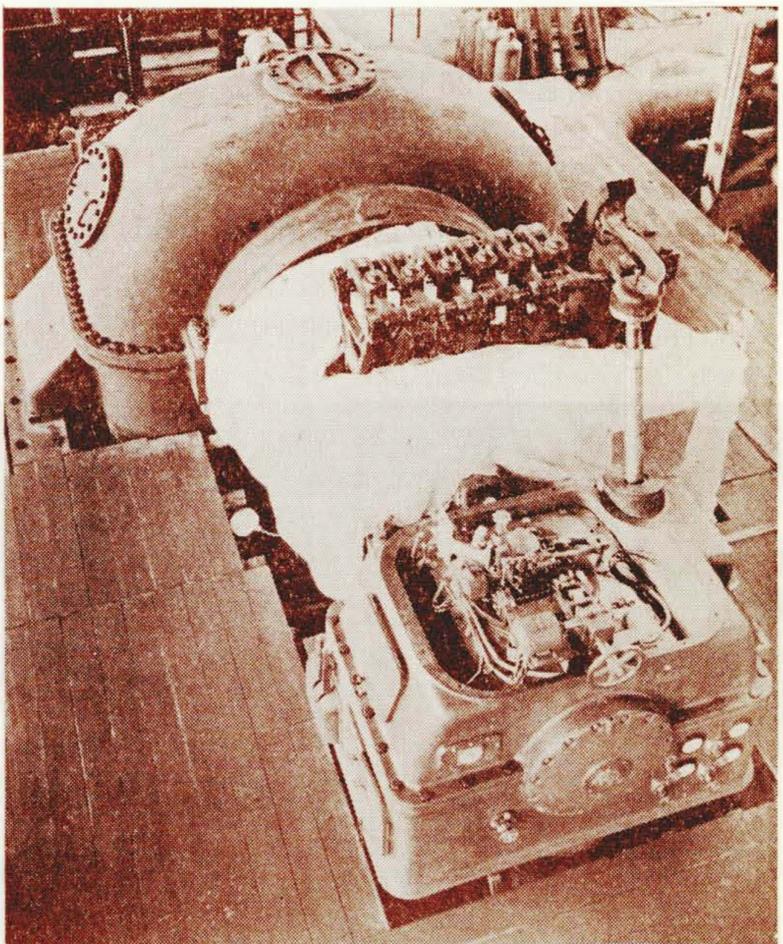
第 1 図 40,200 kW フランシス水車

## 川崎製鉄株式会社納 産業用 15,000kW タービン完成

日立製作所日立工場ではこのほど、川崎製鉄株式会社納 15,000kW 産業用タービンを完成した。

このタービンは熔鋼炉の排熱を利用した自家発電用で、負荷の変動が激しく、起動停止がひんぱんであるなどの苛酷な使用条件にも耐えうる特殊の設計で、かつ信頼度の高い製品である。

日立製作所では電力会社納 75,000 kW、125,000 kW、175,000 kW などの超大形火力発電機器を製作しているが、一般産業用タービンの開発にも努力しており、設計も標準化されて短納期で製作できるよう体制がととのっている。



第 2 図 15,000 kW タービン

## 九州電力株式会社諸塚揚水発電所機器受注

九州電力株式会社において目下建設中の諸塚揚水発電所は、発電所出力 50,000 kW(主機は 1 台)でその単機容量は現在わが国最大の揚水発電所である東北電力株式会社沼沢沼発電所(2 台-21,000 kW ポンプ軸動力)にくらべ、はるかに大きいもので世界でも屈指のものである。またその総揚程も 240 m に及び日本最高のものである。同

社ではその特殊性にかんがみ計画にあたってはかねてより日立製作所と協同研究を進めており、すでにポンプの模型試験結果などの資料も得ているが、このほどポン

# 新技術の集大成 日立 ニ ュ ー ス

プ、水車、発電機（電動機）などの主機が日立製作所に発注された。その仕様は下記のようなものである。

ポンプ	形式・堅軸片吸込2段タービンポンプ
	実揚程 228.7~239.7 m
	最大軸動力 49,100 kW
	回転数 300 rpm
水車	形式 堅軸フランス水車
	落差 226~222 m
	出力 54,000 kW
	回転数 300 rpm
発電機 (電動機)	形式 堅軸同期形
	出力 58,000 kVA (56,000 kW)
	電圧および周波数 11 kV 60~
	回転数 300 rpm

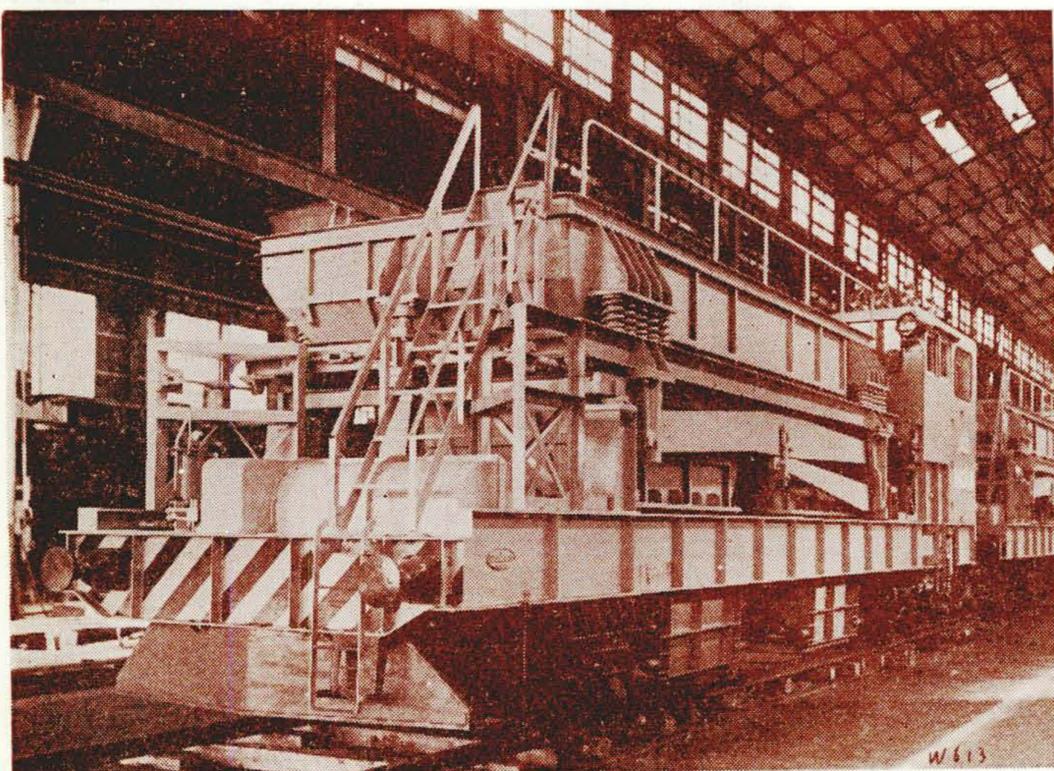
これらの機械は地下に設置されるため、据付面積を少なくするよう堅軸機が採用され下からポンプ、水車および発電機の順に串形に配置されるが、機械の総高は35mにもおよぶものである。

また水車運転時には機械損の軽減をはかるためポンプを切放して運転をするが、昼休みなどの短時間の電力余剰時においてもポンプ運転を行う要求があり、このため水車とポンプのカップリングには特殊のカップリングを採用し、ポンプの着脱を容易に行えるように工夫されている。

## 日本鋼管納 26 t 積鉛石秤量車完成

日本鋼管川崎製鉄所納の26 t 積電動鉛石秤量車2輛が日立製作所笠戸工場において完成、納入された。

この秤量車の特長は、ゲート開閉装置にはじめて油圧



第3図 26 t 積鉛石秤量車

方式を採用したことで、画期的なものといえる。

これは秤量車の上にはホッパーゲート開閉用の油圧装置のみ載せ、貯鉛槽ゲート開閉用油圧装置は地上に設置され、秤量車上から直流電源によってゲートの開閉を制御するもので新しい試みとして注目されている。

なお、秤量車とスキップ巻上室との間に、ホッパーゲート開閉のインターロックを有するほか、印字記録装置、貯鉛槽ゲート開閉スイッチ間や、そのほかに数種のインターロックを有し、誤作動による被害防止、点検の確認などに万全を期して設計してある。

そのほか、車軸軸箱上に緩衝ゴムを装備し従来の固定軸受に比較して振動防止の効果をはかっている。

### 主要要目

軌条中心距離	1,700 mm
最大鉛石積載量	26 t
ホッパー容積	8m <sup>3</sup> ×2個
車体寸法	
長さ(台枠間)	11,600 mm
幅(運転室幅)	2,800 mm
高さ(運転室上面まで)	3,700 mm
電源	AC 50~200 V 三相
走行速度	75 m/min
貯鉛槽切出方式	DC 電源遠方操作オイル開閉式
ホッパーゲート開閉方式	油圧式
秤量機	ダイヤル式印字記録装置付
走行用電動機	30 kW
車輪直径	700 mm
固定軸距	7,000 mm

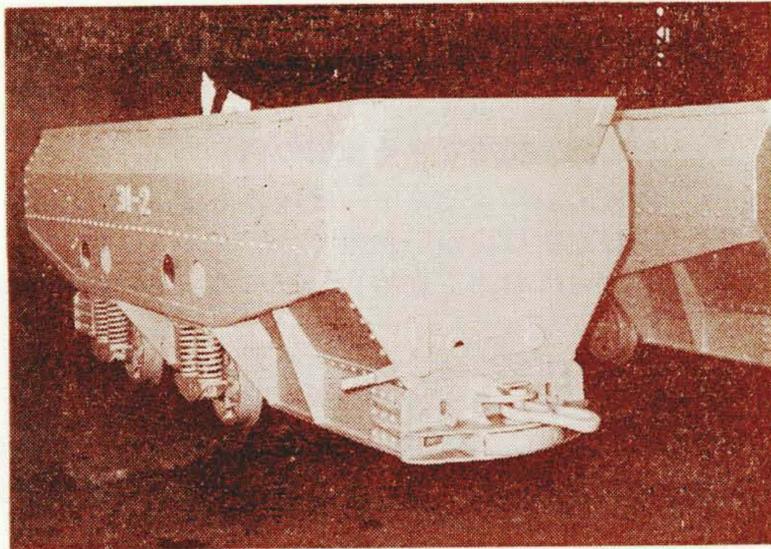
## 大形特殊炭車

切羽の深部移行に伴い炭価に大きな影響を与える採炭および運搬能率の向上が炭鉱における主要課題となっている。炭鉱運搬施設中大きな比重を占める炭車もこの目的で大形化、特殊化の傾向がさかんである。

日立金属工業株式会社で明治鉛業株式会社佐賀鉛業所に納入した8 m<sup>3</sup>底開炭車は坑内炭車としてはわが国最大のもので第4図のような形状を有し、主な使用条件は次のとおりである。

坑内軌道	3度~5度上り勾配 1,200m
	レールゲージ 1,067 mm
編成	4輛
稼働率	3.5回/時間

せまい坑道でこのような大形炭車を使

第4図 8 m<sup>3</sup> 底 開 炭 車

用するためには設計上一般車輛と異なった配慮が必要である。日立金属工業株式会社が製作した車輪、軸受、連結器は次の特長を有している。

- (1) 車輪の占める空間をできるだけ小さくするため車輪径を420 mmに押える反面、耐摩耗性を増すために踏面に高周波表面焼入を施した。
- (2) 車輪の取り付け、取りはずしを簡単にするためホイールランニング構造としこのため負担の増すベアリングは十分大きい強度のものを使用した。
- (3) 坑道はいわゆる盤ぶくれにより常に変動するので炭車が正常な軌道を運行することは期待できない。しかもこのような大形車がせまい坑内で脱線すると復旧が非常に困難となる。したがって車輪を浮き上ることなく常に不齊な軌道に追従させるような軸受が必要である。また底開装置の関係上空車時、実車時の車体高さの差が小さいことが必要である。本炭車の軸受は以上の目的にするよう空車時、実車時ともやわらかいバネ特性を有しかつ実車時の撓みを小さく押えるよう工夫製作され好評を得ている。



第5図 トランジスタ研究所外観

## トランジスタ研究所新設備完成

トランジスタは1948年6月にアメリカのベル研究所で発明されてから10年後の今日その小形、軽量、小消費電力、長寿命などの特長により需要の急増とともに異常な発展をとげてきた。

日立製作所もいち早く研究に着手すると同時に R.C.A.・WE (Western Electric Co., Inc.) と技術提携を行い、今では御本家の製品にまさるとも劣らぬトランジスタを多量に生産している。

わが国のトランジスタの生産量も毎月上昇しており、今や月産約300万個とアメリカにつぐ世界第二の実績をあげている。

日立製作所のトランジスタは品質、数量ともに国内の首位を争っており、この過半数はトランジスタラジオとなって国内はもちろん、広く海外にも輸出され外貨獲得の花形として活躍している。

以下日立トランジスタ研究所新設備の概況を示す。

## (1) 所在地

- (イ) 本工場 東京都北多摩郡小平町鈴木新田 1,450
- (ロ) 原料部門 東京都北多摩郡国分寺町恋ヶ窪 280 中央研究所内21号建屋他

## (2) 敷地および建坪

- (イ) 本工場敷地 24,000 坪  
本工場建坪 1,600 坪
- (ロ) 原料部門建坪 1,500 坪

## (3) 生産品種

- (イ) トランジスタ 一般ラジオ用、短波ラジオ用、高出力用、搬送通信用、スイッチング用、その他

(ロ) ゲルマニウムダイオード

(ハ) サーミスタ (ニ) パリスタ

(4) 半導体の生産高 現在月約100万個生産しているが、34年度にはこれら半導体の生産を200万個にする予定。

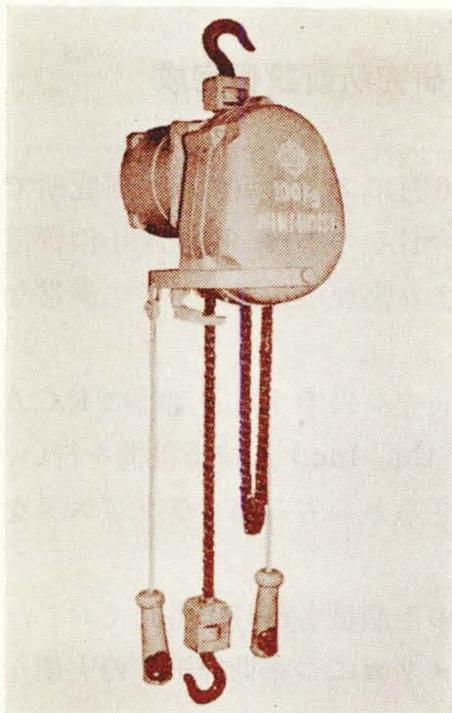
## 日立ミニホイスト

(100 kg 超小形電気ホイスト)

## 製作

荷役の最も便利な機械としては、電気ホイストが知られているが、従来機種では1/4 t (250 kg) が最小であった。

一方需要家の立場よりみると1/4 t 未満の荷重の場合も少なくない。かかる場合の小形簡便なホイストとして今般日立



第6図 日立ミニホイスト

100 kg 超小形ミニホイストを製作した。

作業の中には、たとえば工作機械へ材料を着脱する場合のように胸の高さ位の所に 20~30 kg の荷重を挙げる場合がたくさんあるが、肩にかつぐのと違い腕の力で保持するという事は仲々容易でない。またこういう場合にそのつど天井走行クレンを使用するのもぜいたくで、「クレン待ち」という時間のむだもある。チェンブロックを使用するところもあるが、電気ホイストに比較すれば操作に力を要する点、スピードの点で難色がある。

日立ミニホイストは、このような作業に好適である。さらに工場のみでなく一般商店の店頭において、また倉庫での積みおろし作業など 100 kg 未満の軽荷重の揚げおろし、運搬に絶好の荷役機械である。

#### 特 長

- (1) “ホイストは日立”と定評のある日立製作所が、30年の長い経験の上に、優秀な技術を加えて、日本一の生産量を誇るホイスト工場で作成したホイストであるから安心して使用できる。
- (2) 小形、軽量にできているから、どんなところへでも簡単に移動でき狭い場所でも使用できる。
- (3) ホイストの上部にフックが付いているから、簡単に取り付けられる。また走行装置（トロリ）を付けると荷物の移動も容易にできる（この場合 I 形鋼は必要である）。
- (4) ケーブル給電となっているから、配線の手数がかからない。ケーブルは 5 m つけてある。
- (5) 操作は引紐を軽く引くだけであるから誰にでも容易に扱える。
- (6) 確実に動作する上、下、制限装置が付いているから、誤って荷重を上げすぎ、または下げすぎて機械を破壊する心配がない。
- (7) チェーンはミニホイスト専用の特別に安全度の高い優秀品を使用している。
- (8) 揚程（荷を上げる高さ）は 3 m であるが、チェーンの調整、交換により希望の長さに調整できる。
- (9) 各主要部は高級材料を用い、摺動、嚙合部分は

高周波焼入れにより、耐摩耗性が大である。

(10) 日立ミニホイストは本体が自由に回るから、いずれの方向でも横引きできる。

#### 使用できる職場の例

- (1) 機械工場における工作機械のそばへ
- (2) 一般商店の店頭、倉庫で
- (3) 運送店における貨物自動車への積込み、積みおろしに
- (4) 食品加工場で材料の揚げおろし、運搬に
- (5) 鋳物工場における形合せ作業に
- (6) そのほか、軽荷重の荷物の揚げおろし、運搬を必要とする職場に日立ミニホイストは好適な機械である。

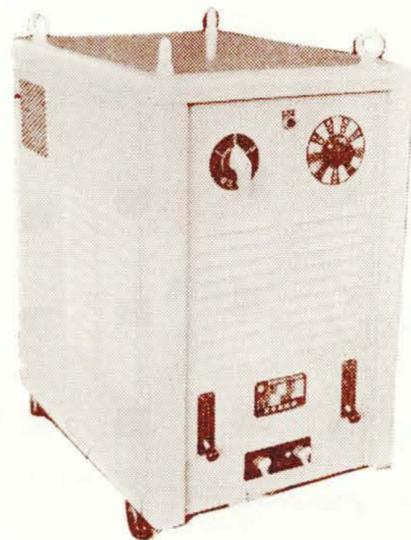
#### 整流器式直流アーク溶接機販売開始

最近非鉄金属ならびにガウジング工作法の合理化として、造船をはじめ一般工業界に直流アーク溶接機採用の気運がたかまってきた。日立製作所ではかねてより直流アーク溶接機の試作研究を行っていたが、このほど新製品としてセレン整流器式直流アーク溶接機の販売を開始した。

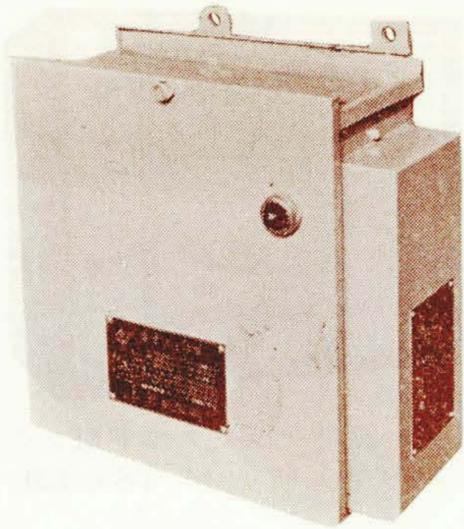
本機は在来のものに比べ構造ならびにセレン整流体の保護、冷却機構等々に一段と改良がほどこされ近代技術にふさわしい装備となっている。

#### 本機の特長

- (1) 整流器は三相全波整流方式を採用してあるので、変圧器に中性点を設ける必要がなく特殊な電気回路により交流電流の電流波形ひずみが少なく直流電流も脈動率の少ない良好な直流が得られる。
- (2) 過大電流によるセレン整流体の破壊を防止するため特別な工夫がほどこされている。
- (3) 電流制御に使用する可飽和リアクタには帰還巻線を併用してあるので、電流調整が広範囲にできしかも溶接特性が良好である。
- (4) 整流器および変圧器内部の冷却特性にマッチした特殊設計の冷却扇を使用している。
- (5) 変圧器、リアクタの主要電気部品は H 種絶縁をほどこしてある。



第7図 整流器式直流アーク溶接機



第8図 交流アーク溶接機用電撃防止装置

### 交流アーク溶接機用電撃防止装置完成

電気溶接機の普及発達とともに、これを取り扱う作業者の電撃事故を極力防止するために、最近特に溶接作業の安全性が真剣に検討されてきている。日立製作所ではかねてより試作研究中であった電撃防止装置がこのほど完成、量産に着手するとともに全国的に販売を開始した。本機は、従来この種の製品の欠点とされた、動作の不確実、アークの不安定、等々については技術的に十分な吟味を加え電圧動作形となっているほか、接点の消耗を防止するため電気回路ならびに材質に特別の考慮がはらわれている。

すでに三菱長崎造船所、日立造船所などに納入し好評を博している。

#### 本機の特長

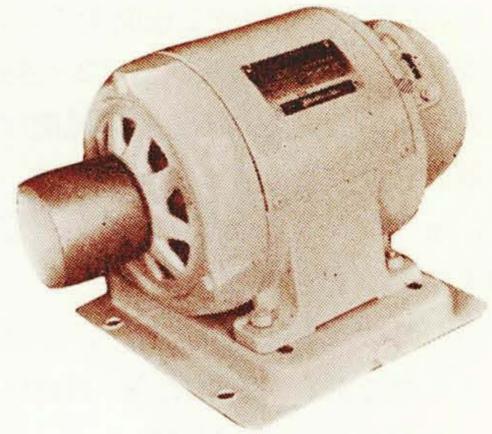
- (1) 溶接電流には無関係に電圧のみによって動作するので、広範囲の溶接機（無負荷電圧 60～180V）に使用できる上に溶接電流に影響をあたえないのでアークがきわめて安定である。
- (2) 起動時間は 0.03～0.06 秒以内で非常に短く溶接コンデションに支障をきたさない。また接触抵抗が大きくても起動が容易である。
- (3) 電源側を開放するようになっているので無負荷損が軽減でき、経済的である。
- (4) 使用部品は良質なものを使用し、防塵対策がほどこされているので信頼度が高い。

### 新形 400 W, 750 W 反発モートル完成

日立製作所ではこのほど 400 W, 750 W 4 極反発起動式単相モートルを完成した。

従来形に比べ次の特長をもっている。

- (1) 小形軽量化された。  
容積重量とも約 20～30% 小さくなっている。



第9図 新形 400W 反発モートル

なお、取付寸法は400Wはコンデンサモートル400W TFO-KQ 形 4 極、750 W は三相 2 HP 4 極 EFO-K 形と同じにしてあるから、使用者はモートル交換のとき便利である。

#### (2) 特性がよい。

モートル用として最高級の珪素鋼板の使用と設計の合理化によって特性は良好で、特に起動トルク、最大出力はかえって向上している。

#### (3) 耐熱、耐湿、耐薬品性がよい。

従来の PVF 線よりはるかに耐熱性にすぐれた電線を用いてあるから、よく高温に耐え、若干の過負荷や熱い場所での使用にも安全性が高くなった。耐湿、耐薬品性も PVF 線よりすぐれている。

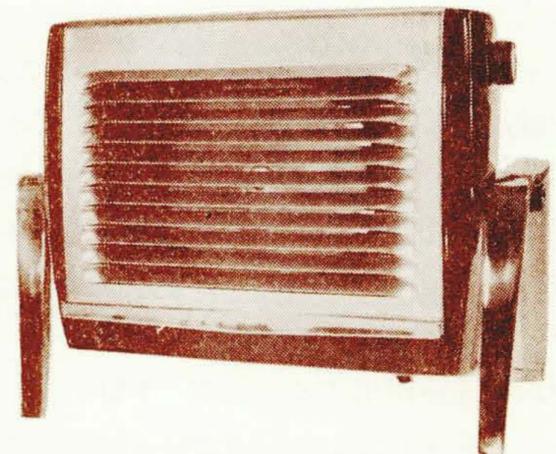
#### (4) 軸受はシールドベアリングを使用している。

なお、日立的反発モートルは 100 W～750 W のシリーズが勢揃いしたことになった。

### 暗室でも使える温風機発売

最近一般家庭でも電気暖房器の優秀さ、すなわち、安全で手軽、経済的、衛生的であることなどが認められ、さかんに用いられるようになった。

日立製作所では、かねて電気暖房の種々の特長をより以上に発揮するようにと、試作研究中であったがこのほ



第10図 1kW 日立温風機

# 日立 ニ ュ ー ス

ど「1kW 日立温風機」を完成し市販することになった。

すでに発売した「日立電気暖房器具27品種, 45品目」にくわえてあらたに発売されるこの温風機は、業界の関心をあつめ好評を博するものと期待されている。特に内部の光線が、まったくもれぬ構造のため、写真暗室用としても好評を呼ぶことであろう。

なお、この温風機は夏は涼風を送り、冬は温風と一年中使用できるものである。価格は ¥ 12,000

本機の主なる仕様および特長は次のとおりである。

## 仕 様

形 式..... VF-118 型  
電 源..... 100V, 50 または 60~  
消 費 電 力..... 1kW  
操 作 機 構  
○ off(切)—cold(冷風)—hot(温風) 切替スイッチ付  
○ 50 or 60~ 切替スイッチ付  
安 全 装 置..... バイメタルによる保安装置付

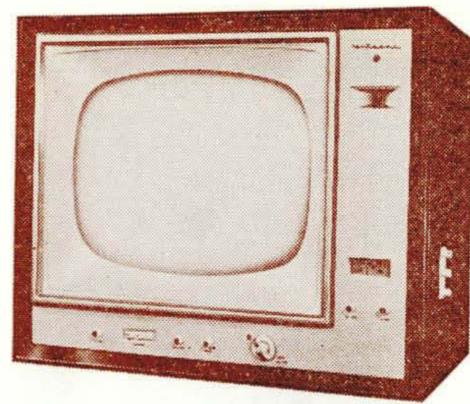
## 特 長

- (1) 斬新、豪華なデザインで洋間にも日本間にもよく調和する。
- (2) 普通のストーブと比べ、短時間でほどよい温風が部屋の隅々まで、広範囲にゆきわたり気持ちよく暖まれる。
- (3) 冬は温風、夏は涼風を送る、3段切替スイッチ付で1年中使用できる。
- (4) 振動防止の内部構造になっているため、静粛に運転される。
- (5) 保安装置付であるから、万一不測の原因でキャビネット内部の温度が上昇しても危険温度に達する前に自動的に電流を断ち、したがって火災などの懸念はまったくない。
- (6) 前部遮光式ガードにより器体内の光線はまったく外部にもれぬため、写真暗室用としても最適である。

## 27 型 (インチ) デラックス FM ラジオ付テレビ発売

このほど日立製作所から FM ラジオ付の超豪華テレビ 27 型 (インチ) 超遠距離用卓上形 “キャサリン” TSY-120 が発売された。

本機は高性能テレビとして、日立の技術を結集して完成されたもので、従来のデラックスシリーズの特長、すなわち中間周波 4 段、キード AGC、ノイズキャンセラーの諸回路により微弱電界でも安定な美しい画像が得られる高性能や、完全トランス式電源、リモート回路付などの特長に加えて、(1) FM ラジオを内蔵しているのでスイッチ一つで FM ラジオに切換できる。(2) さきに日立製作所 14 型遠距離用 “シルビア” FMY-470 に初めて採用され好評を博している日立で特許出願中の世界で最初の押ボタン式ビデオコントロール(画質調節)の採用。



第 11 図 27 型デラックス FM ラジオ付  
テレビ “キャサリン” TSY-120

(3) 高音用スピーカーには周波数特性、指向特性のすぐれた高級ホーン形をまた低音用には 8 in を採用したダイナミックサウンドシステム。(4) 音量豊富なプッシュプル回路など画期的な高性能設計となっている。

現金正価は 340,000 円である。

	規 格
受 信 方 式	テレビ インターキャリヤ方式 FM ラジオ スーパーヘテロダイ ン方式
受 信 周 波 数 帯	テレビ 第 1~第 12 チャンネル切 換 FM ラジオ 80~90 Mc
使 用 真 空 管	29 球 (ブラウン管とも) 日立 6BQ7-A, 6J6, 6CB6×3, 6AU6×6, 6U8×2, 12BY7-A, 6BN8, 6CG8, 6AL5, 12AU7, 6AR5×2, 6CG7, 6CS7, 12BH7-A, 6DQ6-A, 12G-K17, 1B3-GT, 5U4-GB×2
使 用 ブラウン管	日立 27SP4 (27 in 90 度偏向メタル バック)
音 声 出 力	5 W
使 用 電 源	100 V 50/60~ (90 V, 110 V 切換 タップ付)
消 費 電 力	230 W
ス ピ ー カ ー	低音用 8in パーマネントダイナミ ック形 高音用ホーン形パーマネントダイ ナミック形
アンテナ入力インピーダンス	300 オーム平衡形
外 形 寸 法	幅 990 mm 高さ 807 mm 奥行 703 mm
重 量	約 80 kg

## シネラミックサウンドシステム 日立 14 型 (インチ) テレビ “シルビア” FY-340G 発売

このほど日立製作所から新価格の 14 型 (インチ) 遠距離用 “シルビア” FY-340G が発売された。本機は、FMY-320G 型と同クラスの性能をもち、中間周波増幅 3

# 日立 ニュース



第12図 14型テレビ“シルビア”FY-340 G

段の高感度な設計であるが、特にデザインは従来の感覚から一歩踏み出したスマートさをもつと同時に性能を落さずにコストを低減するため新しい合理的な工夫が施されている。特長としてはシネラミックサウンドシステムのほか、新たにラジオへの雑音防止装置およびスポットキラー装置が施されている。真空管は新形複合管6AW8-Aなどの使用により15球で従来の16球同等の性能を得ている。

現金正価は脚付 60,000 円、規格は次のとおり。

## 規 格

受信方式.....	インターキャリヤ方式
受信周波数帯.....	第1～第12チャンネル切換
使用真空管.....	15球 (ブラウン管とも)
	日立 4BQ 7-A 5J 6 3CB 6×2 5U 8×2
	6AW 8-A 6BN 8 4M-P 12 12BH 7-A×2
	12DQ 6-A 12AX 4-GTA 1X 2-B
使用ブラウン管.....	日立 14RP 4 A (14in 角形 90度 偏向メタルバック自動焦点式)
音声出力.....	1.5W
使用電源.....	100V 50/60～(110V 切換タップ付)
消費電力.....	115W
スピーカー.....	6.5 in Hi-Fi 形 パーマネント ダイナミックスピーカー
アンテナ入力インピーダンス.....	300 Ω 平衡形
外形寸法.....	幅 440mm 高さ 383mm (脚付 703mm) 奥行 435mm
重 量.....	22 kg

## ステレオレコードプレーヤー“R-070”発売

日立製作所ではこのほどレコードプレーヤー“R-070”を発売した。

このセットは従来の4スピードプレーヤーからさらに飛



第13図 ステレオレコードプレーヤー“R-070”

躍した高性能セットで、EP、LP、SPの各レコードはもちろん今話題のステレオレコード演奏もできる最新の設計になっているものである。特に本機のモータは永年日立モートルを製作してきたすぐれた設計技術から生れた強力インダクションモータを使用しており、長時間の使用にも絶対回転むらを生じることがなく、またすばらしい再生度を誇る高級ハイファイクリスタルピックアップ付である。そのうえきわめて低廉な価格になっておりどんなラジオにでも簡単に接続して手軽にレコード演奏を楽しむことができる。

規格は次のとおりで価格は現金正価 5,900 円、別にプラスチックカバー 400 円である。

## 規 格

使用電源.....	交流 100V 50または60～
消費電力.....	20VA, 12W
ピックアップ.....	ターンオーバー式 ステレオ クリスタルピックアップ
針 圧.....	LP, EP, SPとも 7g
モ ー タ.....	4スピードインダクションモータ (マグネチックレギュレータ付)
ターンテーブル.....	170mm ゴムカバーリング付
寸 法.....	幅 330mm, 高さ 145mm, 奥行 220mm
重 量.....	3 kg

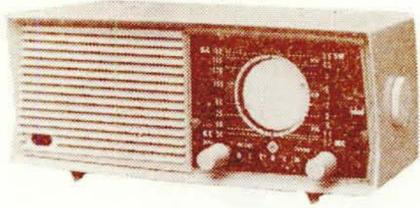
## 2 バンド パーソナル ラジオ

### “エーダ” S-566 発売

このほど日立製作所から新しいデザインのパーソナルタイプ2バンド5球スーパーとして“エーダ”S-566が発売された。

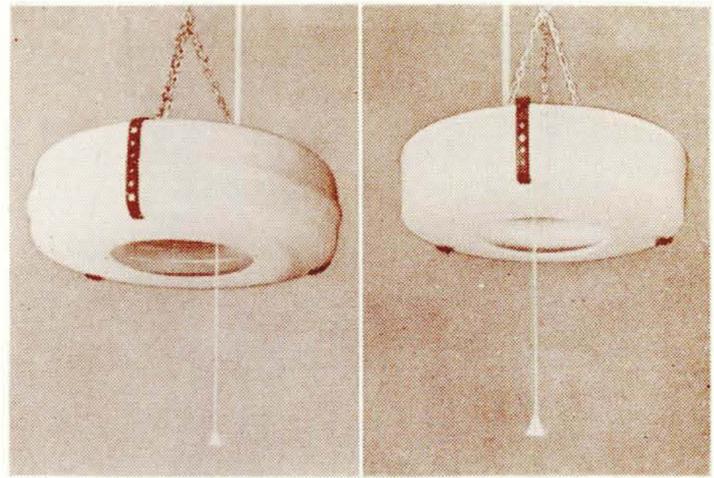
このセットは小形ながらピックアップ接続端子を備えており、イヤホーンの聴取はもちろん5inスピーカー付で、美しい音色が豊富に楽しめる高性能ラジオである。そのうえ2台目、3台目のホームラジオとして最も買いやすい低廉な価格になっている。キャビネットは美しい光沢をもった高級プラスチック製で、その色調にはグレー、クリーム、ローズの3種があり、好みの色調を選ぶことができる。

価格は現金正価 6,500 円で月賦価格は12箇月々賦 7,300 円である。



第14図 2バンドパーソナルラジオ“エーダ”  
S-566

規 格	
回路方式	2バンド5球スーパーヘテロダイ ン方式
受信周波数帯	BCバンド 535~1,605 kc SWバンド 3.8~12 Mc
使用真空管	12BE6 周波数変換管 12BA6 中間周波増幅管 12AV6 検波低周波増幅管兼自動音 量調節管 30A5 出力管 35W4 整流管
感度階級	極微電界級 BC 60 $\mu$ V/50 mW SW 80 $\mu$ V/50 mW
消費電力	25 VA
スピーカー	日立 5 in パーマネントダイナミッ ク形
イヤホンソケット	2個(E-231日立クリスタルイ ヤホン使用)
アンテナ	長さ 3 m 室内アンテナ線付属
寸法	幅 324 mm 高さ 142 mm 奥行 130 mm
重量	2.2 kg



第15図 リングライト 30型(右) 38型(左)

### リングライト 30型, 38型 2機種発売

このほど日立製作所ではリングライト 2機種を発売し  
た。

30型は高級型, 38型は普及型とし, 特に38型は日立独  
特のルミパネルの材料を使用し重量の軽いこと, 透過率  
の良いいこと, デザインのシンプルなこと, いずれも純和  
室向であることなどを特長としている。

30型(グロースタータ式, プルスイッチ付) 正価 2,000円  
保安球付, プラスチック笠

38型(グロースタータ式, プルスイッチ付) 正価 1,900円  
保安球付, 特殊プラスチック笠

### 編集後記

本誌は大正7年4月わが国にお  
ける業界最初の学術研究誌として  
創刊されて以来, ひたすら技術振  
興を念じつつ巻を重ね, 本年をも  
って創刊40周年を迎えることが  
できた。これを記念して本号を創  
刊40周年記念号とし, 読者諸賢  
にお贈りする。

☆

わが国の技術者の手で設計し, 国産の材料で製作される注目の国産1号実験用原子炉の建設は着々と進められており, 原子力平和利用に大きな期待がかけられている。この国産1号実験用原子炉に関する論文と, 原子炉内において核分裂によって放出される中性子の減速, 熱エネルギー化およびスペクトルの理論についての2論文をもって原子力時代下に発行される本記念号の巻頭を飾った。

☆

「水力発電用機器の歩み」以下「鉄鋼製品の歩み」までの8篇は, それぞれの機器および製品が時代の推移とともに進歩発達した技術の成果の歩みを集めたもので, 本記念号にまことにふさわしいものといえよう。

なお, これらの論文の執筆にあたっては, それぞれ多数の関係者の御協力をいただいた。

☆

一家一言には日立製作所倉田社長より玉稿をいただいた。倉田社長は御外遊前の御多忙な時間をさいて本誌のために玉稿を賜ったもので, その御好意はまことに感謝にたえない。

☆

本誌の発刊に貢献された日立製作所馬場顧問より「日立評論四十年回顧」の特別寄稿をいただくことができ, 本記念号に一段と光彩を放ちえたことを読者とともに喜びたい。

### 日立評論 第40巻 第11号

昭和33年11月20日印刷 昭和33年11月25日発行  
(毎月1回25日発行)

< 禁無断転載 >

定価 1部 100円(送料12円)

© 1958 by Hitachi Hyoronsha

編集兼発行人 鈴木 万 吉  
印刷人 本 間 博  
印刷所 株式会社日立印刷所  
発行所 日立評論社  
東京都千代田区丸の内1丁目4番地  
電話 千代田(27) 0111, 0211, 0311  
振替口座 東京 71824番  
取次店 株式会社オーム社書店  
東京都千代田区神田錦町3丁目1番地  
振替口座 東京 20018番

広告取次店 廣和堂 東京都中央区新富町2丁目16番地 電話 築地(55) 9028番